

令和5年度 秋学期
授業評価アンケート結果

令和6年3月29日
滋賀文教短期大学

1. 目次

ページ	内容	
1	1. 目次	
1	2. 授業アンケートについて	
2	3. 授業アンケート質問項目	
3	4. 授業アンケート集計結果	(1) 全学
4		(2) 国文学科全体
5		(3) 国文学科1年生
6		(4) 国文学科2年生
7		(5) 子ども学科全体
8		(6) 子ども学科1年生
9		(7) 子ども学科2年生
10	5. 全学的考察	(1) 授業アンケート結果について
11		(2) 授業の質向上のために
12	6. 国文学科全体の考察	(1) 授業アンケート結果について
		(2) 授業の質向上のために
13	7. 子ども学科全体の考察	(1) 授業アンケート結果について
15		(2) 授業の質向上のために
15	8. 授業アンケート回答率の推移	

2. 授業アンケートについて

■概要

本学では、実習科目を除く全科目の14回目または15回目で約10分程度の時間を設け、授業アンケートを実施している。学生は、学生ポータルサイトからアンケートに無記名式で回答する。

■実施期間

学年暦において14回目または15回目の授業内で授業アンケートを実施する。

秋学期開講科目は、令和5年12月14日～令和5年12月27日に実施した。

■授業アンケートの活用

授業アンケートの集計結果（学務課教務担当による集計）、科目レベルの学修成果の査定結果（授業アンケートによる学生の達成実感度と科目GPAによる査定）の主に2点をふまえて、授業検討票に省察を記録する。

本学の科目レベルの査定においては、学生の達成実感度60%以上かつ、科目GPAが2.00から3.00までのときを、望ましい水準とアセスメント・プランに定めている。

これらをふまえて、科目担当教員は授業に関してどのような工夫をすれば学生がより学修成果を獲得できるかを検討し、次年度に向けたシラバス改善案を記録する。

さらに、全科目の授業アンケート結果や授業検討票をもとに、各学科の総評を学科長が、全学的総評をFD委員長が行う。このような取り組みにより、科目レベルだけでなく組織的に授業のさらなる質向上に努めている。

授業アンケートの結果は、概要を本学ホームページで過去3年間分、学生ポータルサイトで自由記述欄以外の数値を公開している。また、授業検討票は閉架式にて学務課教務にて保管し、閲覧希望者に開示している。

3. 授業アンケート質問項目

選択式の質問1～8は回答必須とし、自由記述欄である質問9については任意による回答とした。
質問と回答の選択肢を下記に引用する。

1. あなたは、この授業の到達目標がどのくらい達成できましたか。【単一選択式】

シラバス記載の到達目標のうち、関連するディプロマポリシーにおいてカリキュラムマップ上で二重丸がついているものが科目担当教員から学生に1つだけ提示されます。

- ①達成できた ②おおむね達成できた ③達成できなかった

2. 授業内容は興味・関心が持てましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

3. 授業内容をよく理解できましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

4. この授業はシラバスに沿った内容でしたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

5. 学生の理解を促す工夫がなされていたか。【単一選択式】

(言葉による説明だけでなく、適切な資料、板書等の活用、グループワーク)

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

6. 工夫してほしいと感じたことを選んでください。【複数選択式】

- ①私語への対応 ②聞き取りやすい話し方 ③教科書・配布資料の活用
④分かりやすいパワーポイントや板書 ⑤特になし

7. 教員は学生の理解や反応を見ながら授業を進めていましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

8. あなたは、この授業の予修・復修など自主学修に1週間あたりどのくらいかけましたか。【単一選択式】

※授業に間接的に関係のある学修を含む。学内外を問わず、授業時間以外の時間を回答（ピアノ練習、基礎ピアノ準備、実習準備等）

- ①3時間以上 ②2時間以上3時間未満 ③1時間以上2時間未満
④30分以上1時間未満 ⑤30分未満

9. あなたがこの授業を受ける中で感じた良かった点や改善してほしい点があれば、記述してください。

(特に記述することが無い場合は空欄のままです)

自由記述欄

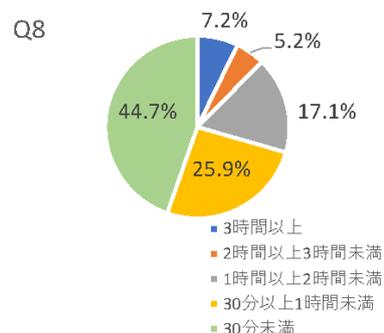
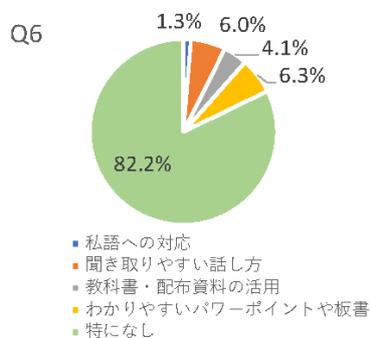
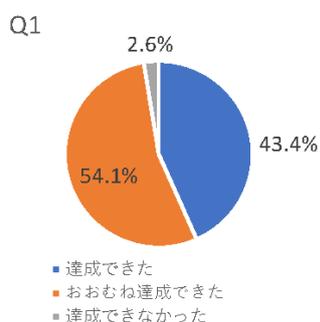
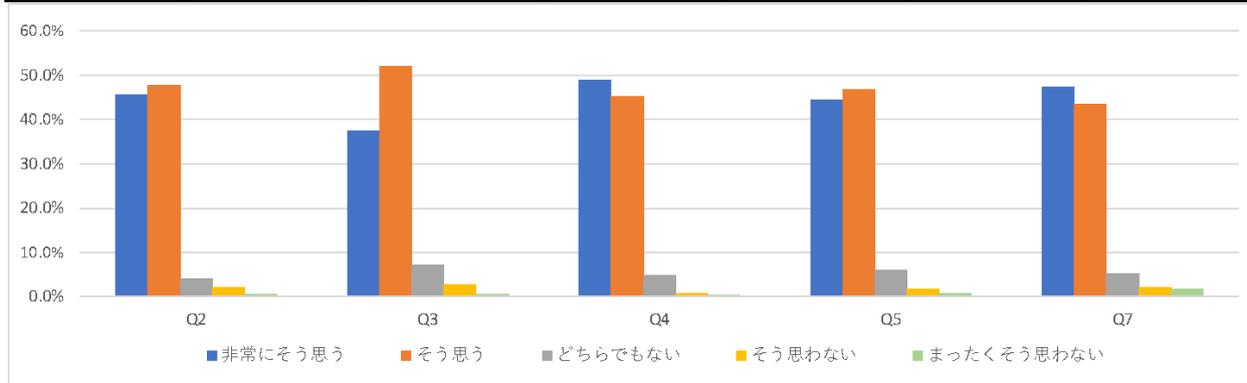
4 - (1). 授業アンケート集計結果 (全学)

●全体 集計

受講人数	回収数	回収率
1324	1086	82.0%

	1	2	3	4	5	計
Q1	471	587	28	-	-	1086
Q2	496	518	44	22	6	1086
Q3	406	566	78	29	7	1086
Q4	531	492	52	8	3	1086
Q5	484	508	65	20	9	1086
Q6	15	70	48	73	954	1160
Q7	514	472	58	24	18	1086
Q8	78	56	186	281	485	1086

	1	2	3	4	5	計
Q1	43.4%	54.1%	2.6%	-	-	100.0%
Q2	45.7%	47.7%	4.1%	2.0%	0.6%	100.0%
Q3	37.4%	52.1%	7.2%	2.7%	0.6%	100.0%
Q4	48.9%	45.3%	4.8%	0.7%	0.3%	100.0%
Q5	44.6%	46.8%	6.0%	1.8%	0.8%	100.0%
Q6	1.3%	6.0%	4.1%	6.3%	82.2%	100.0%
Q7	47.3%	43.5%	5.3%	2.2%	1.7%	100.0%
Q8	7.2%	5.2%	17.1%	25.9%	44.7%	100.0%



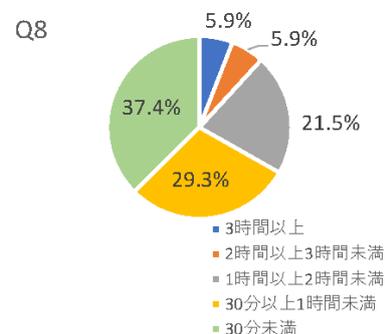
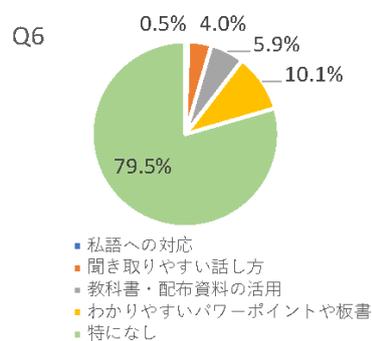
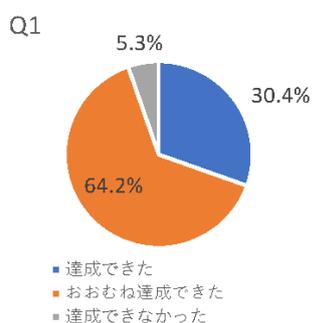
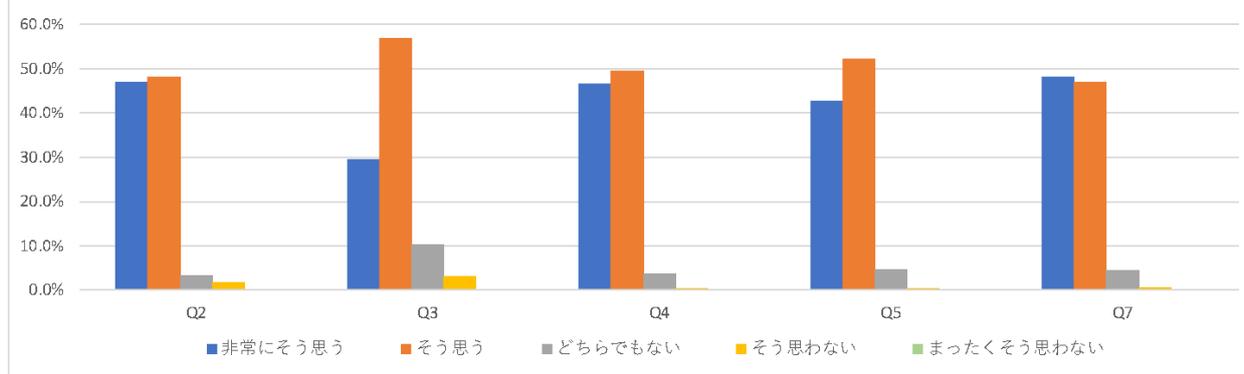
4 - (2). 授業アンケート集計結果 (国文学科全体)

●国文学科 全体集計

受講人数	回収数	回収率
403	358	88.8%

	1	2	3	4	5	計
Q1	109	230	19	-	-	358
Q2	168	172	12	6	0	358
Q3	106	204	37	11	0	358
Q4	167	177	13	1	0	358
Q5	153	187	17	1	0	358
Q6	2	15	22	38	299	376
Q7	172	168	16	2	0	358
Q8	21	21	77	105	134	358

	1	2	3	4	5	計
Q1	30.4%	64.2%	5.3%	-	-	100.0%
Q2	46.9%	48.0%	3.4%	1.7%	0.0%	100.0%
Q3	29.6%	57.0%	10.3%	3.1%	0.0%	100.0%
Q4	46.6%	49.4%	3.6%	0.3%	0.0%	100.0%
Q5	42.7%	52.2%	4.7%	0.3%	0.0%	100.0%
Q6	0.5%	4.0%	5.9%	10.1%	79.5%	100.0%
Q7	48.0%	46.9%	4.5%	0.6%	0.0%	100.0%
Q8	5.9%	5.9%	21.5%	29.3%	37.4%	100.0%



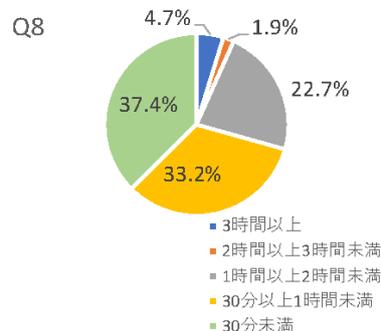
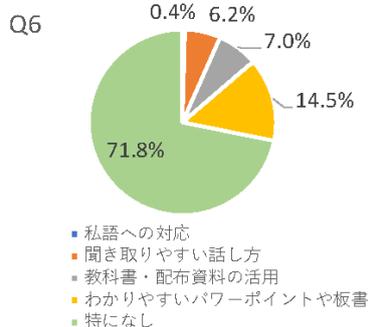
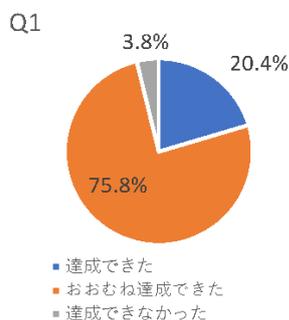
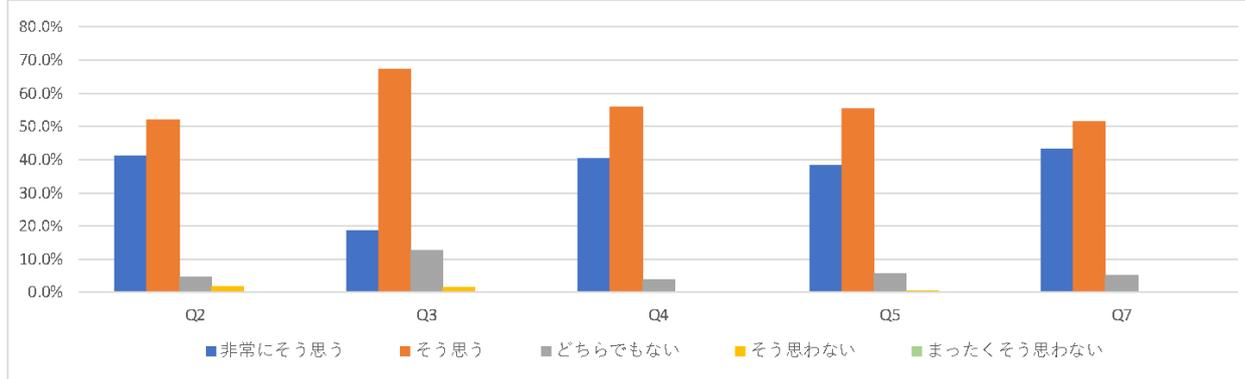
4 - (3). 授業アンケート集計結果 (国文学科1年生)

●国文学科1年次生集計

受講人数	回収数	回収率
235	211	89.8%

	1	2	3	4	5	計
Q1	43	160	8	-	-	211
Q2	87	110	10	4	0	211
Q3	39	142	27	3	0	211
Q4	85	118	8	0	0	211
Q5	81	117	12	1	0	211
Q6	1	14	16	33	163	227
Q7	91	109	11	0	0	211
Q8	10	4	48	70	79	211

	1	2	3	4	5	計
Q1	20.4%	75.8%	3.8%	-	-	100.0%
Q2	41.2%	52.1%	4.7%	1.9%	0.0%	100.0%
Q3	18.5%	67.3%	12.8%	1.4%	0.0%	100.0%
Q4	40.3%	55.9%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%
Q5	38.4%	55.5%	5.7%	0.5%	0.0%	100.0%
Q6	0.4%	6.2%	7.0%	14.5%	71.8%	100.0%
Q7	43.1%	51.7%	5.2%	0.0%	0.0%	100.0%
Q8	4.7%	1.9%	22.7%	33.2%	37.4%	100.0%



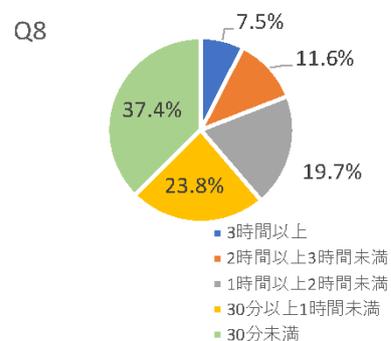
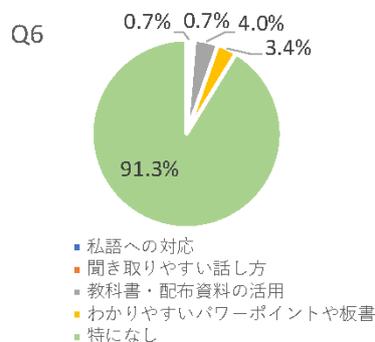
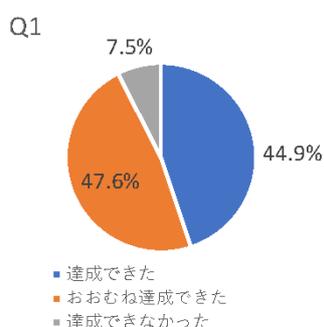
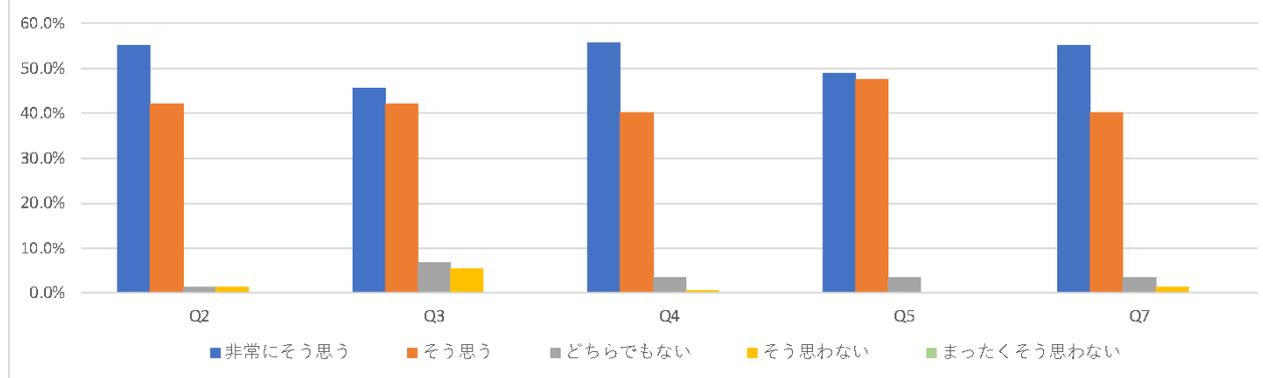
4 - (4). 授業アンケート集計結果 (国文学科2年生)

●国文学科2年次生集計

受講人数	回収数	回収率
168	147	87.5%

	1	2	3	4	5	計
Q1	66	70	11	-	-	147
Q2	81	62	2	2	0	147
Q3	67	62	10	8	0	147
Q4	82	59	5	1	0	147
Q5	72	70	5	0	0	147
Q6	1	1	6	5	136	149
Q7	81	59	5	2	0	147
Q8	11	17	29	35	55	147

	1	2	3	4	5	計
Q1	44.9%	47.6%	7.5%	-	-	100.0%
Q2	55.1%	42.2%	1.4%	1.4%	0.0%	100.0%
Q3	45.6%	42.2%	6.8%	5.4%	0.0%	100.0%
Q4	55.8%	40.1%	3.4%	0.7%	0.0%	100.0%
Q5	49.0%	47.6%	3.4%	0.0%	0.0%	100.0%
Q6	0.7%	0.7%	4.0%	3.4%	91.3%	100.0%
Q7	55.1%	40.1%	3.4%	1.4%	0.0%	100.0%
Q8	7.5%	11.6%	19.7%	23.8%	37.4%	100.0%



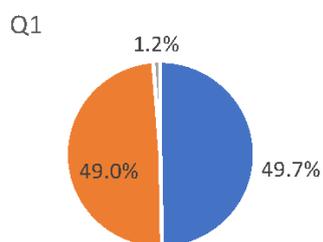
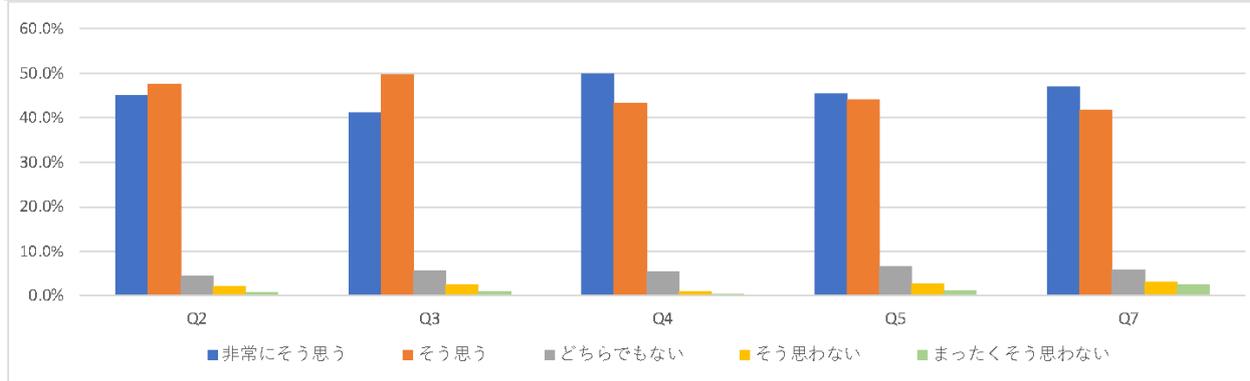
4 - (5). 授業アンケート集計結果 (子ども学科全体)

●子ども学科 全体集計

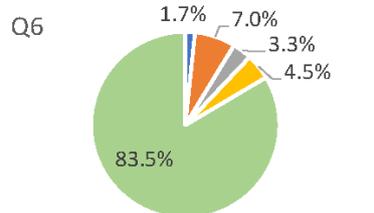
受講人数	回収数	回収率
921	728	79.0%

	1	2	3	4	5	計
Q1	362	357	9	-	-	728
Q2	328	346	32	16	6	728
Q3	300	362	41	18	7	728
Q4	364	315	39	7	3	728
Q5	331	321	48	19	9	728
Q6	13	55	26	35	655	784
Q7	342	304	42	22	18	728
Q8	57	35	109	176	351	728

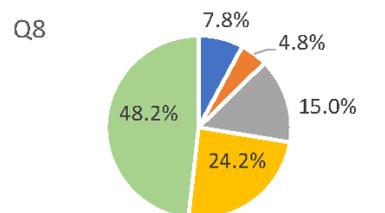
	1	2	3	4	5	計
Q1	49.7%	49.0%	1.2%	-	-	100.0%
Q2	45.1%	47.5%	4.4%	2.2%	0.8%	100.0%
Q3	41.2%	49.7%	5.6%	2.5%	1.0%	100.0%
Q4	50.0%	43.3%	5.4%	1.0%	0.4%	100.0%
Q5	45.5%	44.1%	6.6%	2.6%	1.2%	100.0%
Q6	1.7%	7.0%	3.3%	4.5%	83.5%	100.0%
Q7	47.0%	41.8%	5.8%	3.0%	2.5%	100.0%
Q8	7.8%	4.8%	15.0%	24.2%	48.2%	100.0%



- 達成できた
- おおむね達成できた
- 達成できなかった



- 私語への対応
- 聞き取りやすい話し方
- 教科書・配布資料の活用
- わかりやすいパワーポイントや板書
- 特になし



- 3時間以上
- 2時間以上3時間未満
- 1時間以上2時間未満
- 30分以上1時間未満
- 30分未満

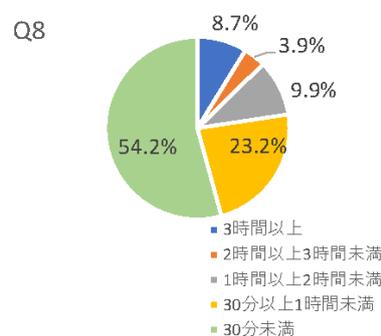
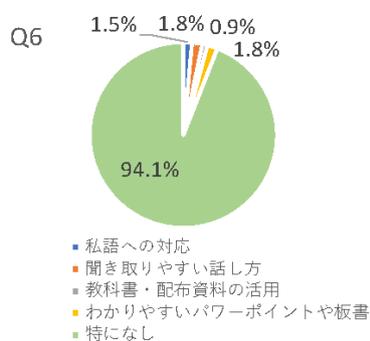
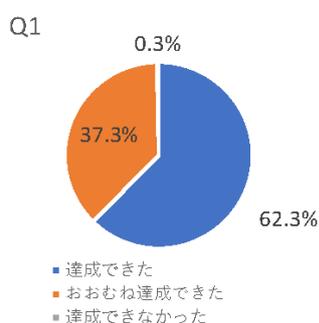
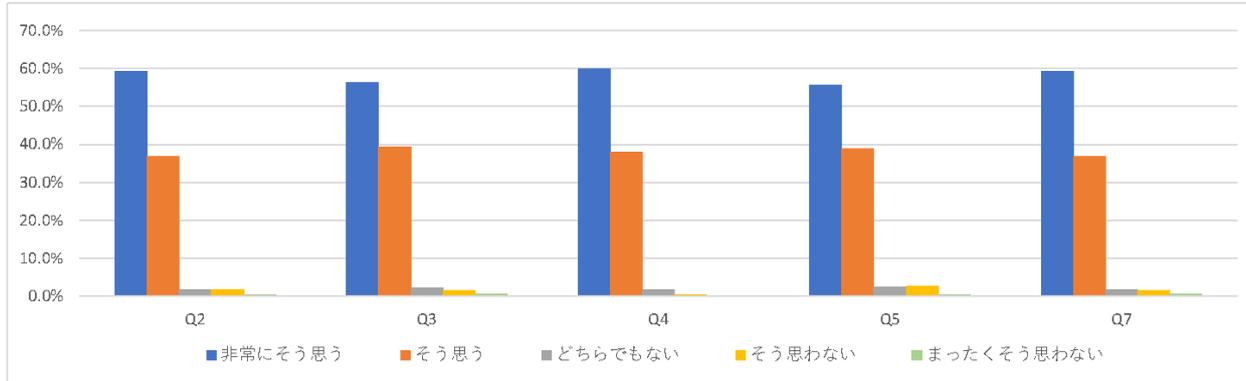
4 - (6). 授業アンケート集計結果 (子ども学科1年生)

●子ども学科1年次生集計

受講人数	回収数	回収率
381	332	87.1%

	1	2	3	4	5	計
Q1	207	124	1	-	-	332
Q2	197	122	6	6	1	332
Q3	187	131	7	5	2	332
Q4	199	126	6	1	0	332
Q5	185	129	8	9	1	332
Q6	5	6	3	6	318	338
Q7	197	122	6	5	2	332
Q8	29	13	33	77	180	332

	1	2	3	4	5	計
Q1	62.3%	37.3%	0.3%	-	-	100.0%
Q2	59.3%	36.7%	1.8%	1.8%	0.3%	100.0%
Q3	56.3%	39.5%	2.1%	1.5%	0.6%	100.0%
Q4	59.9%	38.0%	1.8%	0.3%	0.0%	100.0%
Q5	55.7%	38.9%	2.4%	2.7%	0.3%	100.0%
Q6	1.5%	1.8%	0.9%	1.8%	94.1%	100.0%
Q7	59.3%	36.7%	1.8%	1.5%	0.6%	100.0%
Q8	8.7%	3.9%	9.9%	23.2%	54.2%	100.0%



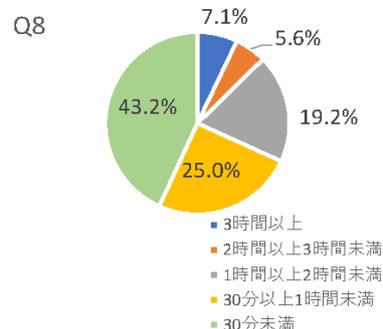
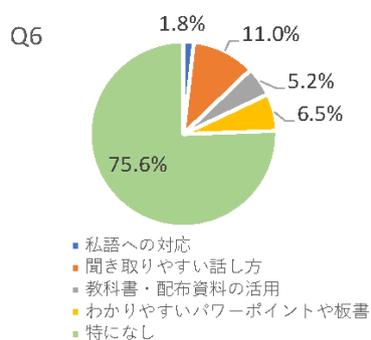
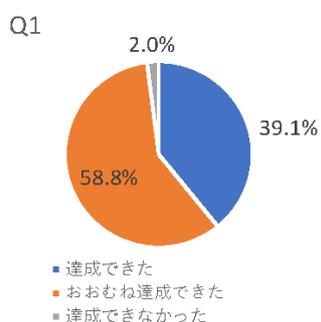
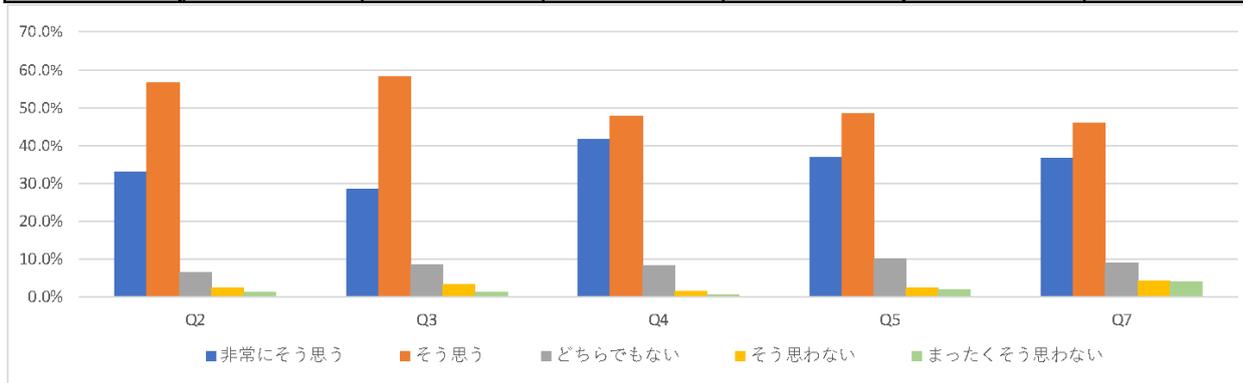
4 - (7). 授業アンケート集計結果 (子ども学科2年生)

●子ども学科2年次生集計

受講人数	回収数	回収率
540	396	73.3%

	1	2	3	4	5	計
Q1	155	233	8	-	-	396
Q2	131	224	26	10	5	396
Q3	113	231	34	13	5	396
Q4	165	189	33	6	3	396
Q5	146	192	40	10	8	396
Q6	8	49	23	29	337	446
Q7	145	182	36	17	16	396
Q8	28	22	76	99	171	396

	1	2	3	4	5	計
Q1	39.1%	58.8%	2.0%	-	-	100.0%
Q2	33.1%	56.6%	6.6%	2.5%	1.3%	100.0%
Q3	28.5%	58.3%	8.6%	3.3%	1.3%	100.0%
Q4	41.7%	47.7%	8.3%	1.5%	0.8%	100.0%
Q5	36.9%	48.5%	10.1%	2.5%	2.0%	100.0%
Q6	1.8%	11.0%	5.2%	6.5%	75.6%	100.0%
Q7	36.6%	46.0%	9.1%	4.3%	4.0%	100.0%
Q8	7.1%	5.6%	19.2%	25.0%	43.2%	100.0%



5 - (1). 全学的考察 (授業アンケート結果について)

今期も昨年度の秋学期と同様、8項目の授業アンケートと自由記述を行った。ここでは、その中の5項目のアンケート結果を中心に考察する。

質問項目 (1) あなたは、この授業の到達目標がどのくらい達成できましたか。

	達成できた	おおむね達成できた	合計
令和3年度秋学期	34.8%	62.7%	97.5%
令和4年度春学期	34.3%	62.8%	97.1%
令和4年度秋学期	40.6%	57.1%	97.7%
令和5年度春学期	50.6%	46.2%	96.8%
令和5年度秋学期	43.4%	54.0%	97.4%

「達成できた」と回答した学生は、昨年度同期の春学期から2.8ポイント上昇している。「おおむね達成できた」は3.1ポイント減っているが、合計においては、例年同期とほぼ同じ97%台という高い数字で推移していることが伺える。

質問項目 (2) 授業内容は興味・関心が持てましたか。

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和3年度秋学期	35.6%	54.5%	90.1%
令和4年度春学期	39.5%	50.0%	89.5%
令和4年度秋学期	44.5%	47.4%	91.9%
令和5年度春学期	55.4%	37.3%	92.7%
令和5年度秋学期	45.7%	47.7%	93.4%

「非常にそう思う」と「そう思う」の合計は、昨年同期と比較して1.5ポイントの上昇であり、継続的に9割以上の学生が興味・関心をもって参加することができている。わずかではあるが右肩上がりの数字で、3年間通年比較においても過去最高の結果となっている。

質問項目 (3) 授業内容をよく理解できましたか。

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和3年度秋学期	28.6%	57.9%	86.5%
令和4年度春学期	30.6%	54.0%	84.6%
令和4年度秋学期	38.1%	52.2%	90.3%
令和5年度春学期	45.2%	45.2%	90.4%
令和5年度秋学期	37.4%	52.1%	89.5%

令和3年度同期との「非常にそう思う」の比較においては8.8ポイントという大きな伸びではあるが、令和4年度との比較においては0.7ポイントの低下となっている。「非常にそう思う」と「そう思う」の合計においても低下がみられ90%をきったものの、3年間と比較すれば平均以上の数字を保っている。

質問項目 (5) 学生の理解を促す工夫がなされていましたか。(言葉による説明だけでなく、適切な資料、板書等の活用、グループワーク)

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和3年度秋学期	33.8%	52.5%	86.3%
令和4年度春学期	38.8%	48.9%	87.7%

令和4年度秋学期	42.0%	49.1%	91.1%
令和5年度春学期	54.6%	38.1%	92.7%
令和5年度秋学期	44.6%	46.8%	91.4%

「非常にそう思う」と回答した学生は、令和4年度秋学期よりも2.6ポイント、3年度秋学期との比較では10.8ポイントの上昇となっている。「そう思う」は減少しているが、「非常にそう思う」「そう思う」の合計では、4年度同期よりも0.3ポイント、3年度同期より5.1ポイント上昇し、過去3年間同期においては最高の数字となった。毎年、少しずつではあるが、教員の授業の理解を促す工夫が結果に反映されていることが伺える。

質問項目(8)あなたは、この授業の予修・復修など自主学修に1週間あたりどのくらいかけましたか。

※授業に間接的に関係のある学修を含む。学内外を問わず、授業時間以外の時間を回答(例 ピアノ練習、基礎プロ準備、実習準備等)

	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満
令和3年度秋学期	8.9%	7.5%	17.9%	24.3%	41.3%
令和4年度春学期	4.8%	3.7%	15.3%	23.6%	52.8%
令和4年度秋学期	7.3%	7.4%	16.5%	23.5%	45.3%
令和5年度春学期	2.3%	5.8%	21.9%	28.8%	41.2%
令和5年度秋学期	7.2%	5.2%	17.1%	25.9%	44.6%

令和5年度秋学期の自主学修時間が「2時間以上」及び「3時間以上」の合計は12.4%であり、令和4年度同期と比べて2.3ポイント、令和3年度と比較して4ポイント下がっている。「30分未満」については、昨年度同期と比べると0.7ポイント減っており、わずかながら改善がみられる。全体的には「1時間以上2時間未満」「30分以上1時間未満」の中間層が増えている傾向であることが伺える。今後、課題の内容や学修の仕方など、さらに丁寧に指導していく必要がある。

5-(2). 全学的考察(授業の質向上のために)

授業内容への興味・関心(質問(2))及び、授業において学生の理解を促す工夫(質問(5))について、それぞれ「非常にそう思う」「そう思う」の合計がわずかではあるが例年を上回り、過去最高の結果となった。講義形式の授業だけでなく、グループワークやプレゼンテーションへの主体的な参加、さまざまな資料やICTの活用など、各授業を通して学生の資質・能力を確実に育成する取組を進めていることが反映されたと考える。

その反面、授業内容の到達目標の達成(質問(1))、授業内容の理解(質問(3))及び、自主学修時間(質問(8))についての結果は例年の結果よりわずかに低めではあるが大きく減少することなく、概ね平均的な数字を維持している状況である。教員の工夫により興味・関心が高まる工夫された楽しい授業をデザインすることはできているが、必ずしも、「主体的・対話的で深い学び」につながる展開が期待できるわけではない、という実態を伺うことができる。改めて「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組む必要がみられる。

自主学修においては、中間層が増える傾向がみられたが、依然として30分未満の学生は4割以上を占めている。家庭での学修習慣を定着させるためには、個々の学生の学修へのモチベーションや学修意欲の向上が不可欠である。シラバスには、予修・復修の内容と時間を明記しており、反転授業の実施や予修・復修に係る課題も提示しているが、家庭での学修習慣の定着に向けて一層の取組が必要である。自主学修の充実を図るには、授業と自主学修を接続することが大切であり、課題の出し方や自主学修の評価方法を工夫する必要がある。問題意識を明確にした知識等を定着させるための課題や、授業の発展的な課題、学生の興味関心に基づいた課題が選択できる等、学生が主体的に学びたいと感じ、成果を実感できる自主学修となるよう改善していくことが求められる。今年度のFD研修においても、アクティブラーニングが学生の主体性を引き出すことに成功していない、とい

うベネッセの調査結果の紹介があった。教員による学生に対する関与や、適切な足場かけ、学生の心理的安全性の向上が大きなカギを握っていることを全教員が学ぶ機会を得た。

今後も教員のFD研修を計画的に実施し、学生が「主体的・対話的で深い学び」ができる授業の構築をめざして、大学全体として授業の質の向上を図っていきたい。

6- (1). 国文学科全体の考察 (授業アンケート結果について)

質問項目 (3) 「授業内容をよく理解できましたか」について、「非常にそう思う」「そう思う」および両者の合計を過去4年間の同時期と比べると次のようになる。

【表1】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和元年度秋学期	21.0%	53.4%	74.4%
令和2年度秋学期	14.5%	73.5%	88.0%
令和3年度秋学期	18.9%	57.3%	76.2%
令和4年度秋学期	31.3%	52.9%	84.2%
令和5年度秋学期	29.6%	57.0%	86.6%

今年度の数字を過去4年と比較すると、「非常にそう思う」「そう思う」の合計値は令和2年度に次いで高い。その令和2年度は「非常にそう思う」が14.5%であったのに対し、今年度は29.6%と非常に高い。授業理解に関する自己評価は非常に高い数値を示していると言えるだろう。

同じ項目の学年ごとの違いは以下の通りである。

【表2】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
1年生	18.5%	67.3%	85.8%
2年生	45.6%	42.2%	87.8%

昨年度と同じデータは次の通りである。

【表3】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
1年生	37.8%	49.2%	87.0%
2年生	24.8%	56.7%	81.5%

上のふたつのデータ (【表2】【表3】) を比較すると、今年度の2年生の授業内容理解についての自己評価が非常に高いことが目立つ。このことは昨年度から一貫して見られる傾向であり、2年生が授業内容をよく理解できたと考えていることが明確に示されている。これに対し、1年生は春学期の回答では「非常にそう思う」が27.6%、「そう思う」が59.4%、両者の合計が87.0%であり、秋学期になって「非常にそう思う」の回答が減少している。ただし、この数値のみをもって、2年生は1年生に比べ授業をよく理解しているということとはできない。むしろGPAその他のデータと突き合わせると、2年生は自己評価が高すぎ、客観的な学修成果の習得状況とズレが存在するとも考えられる。

質問項目 (8) の学習時間について、学年ごとの集計は以下の通りである。

【表4】	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満
1年生	4.7%	1.9%	22.7%	33.2%	37.4%
2年生	7.5%	11.6%	19.7%	23.8%	37.4%

1年生・2年生とも春学期と比べると各項目とも特筆すべき大きな変化はない。ただし2年生は1年生秋学期と比べると「3時間以上」が1.3%から7.5%、「2時間以上3時間未満」が5.5%から11.6%と、長時間の学習を行っている数値が伸びており、授業外での学習時間は学習が進むにつれ増加しているといえる。

6- (2). 国文学科全体の考察 (授業の質向上のために)

この数年指摘しているように、一定以上の学習時間が確保されていることなどから、学習習慣が少しずつでは

あるが着実に定着してきていると考えられる。一定の学習時間がなければ、学修成果を獲得することは当然ながら困難である。しかしながら、学習時間という量的な指標のみでは学修成果の獲得状況は測ることができない。また、学習時間を一定以上増加させることは困難である。こうしたことから、量的な増加ではない授業外学習の質的転換を図る必要があるが、このことは課題であり続けている。

昨年度に指摘したことだが、現在の学生は以前に比べレポートやプレゼンテーションの質が向上している。これは「基礎ゼミ」の設置といったカリキュラム上の改善、様々な授業を通じた指導（レポートの書き方、プレゼンテーション、先行研究を入手し活用することなど多岐にわたる指導）などによるものである。これは授業外学習とも連動しており、このようなことを通して授業外学習においても質的転換を図っている。

またアクティブラーニング、サービ斯拉ーニング、フィールドワーク、ICTの活用といった授業方法・内容の質をより向上させるための学科教員共同の授業研究も以前より課題となっている。それぞれの教員の業務負担が大きく、こちらも継続的課題であるが、学科会議その他の場面で情報共有を行い、学習内容等を検討している。また「基礎力プログラム」や「基礎ゼミ」などの科目は教員が複数で共同担当し、実際に授業を行っていくなかで共同で授業方法や内容をブラッシュアップすることを試みている。こうした取り組みをさらに推し進めていくことで、授業の質を向上させていく。

7- (1). 子ども学科全体の考察 (授業アンケート結果について)

①授業アンケート結果について

質問項目 2、質問項目 3、質問項目 5 について、3 年間の経緯を比較してみると、次のような結果であった。

質問項目 2：授業内容に関心が持てたか

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和 3 年度秋学期	37.0%	54.3%	91.3%
令和 4 年度秋学期	44.4%	47.4%	91.8%
令和 5 年度秋学期	45.1%	47.5%	92.6%

質問項目 3：授業内容が理解できた

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和 3 年度秋学期	32.2%	58.1%	90.3%
令和 4 年度秋学期	40.1%	52.4%	92.5%
令和 5 年度秋学期	41.2%	49.7%	90.9%

質問項目 5：授業に工夫があった

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和 3 年度秋学期	35.6%	51.7%	87.3%
令和 4 年度秋学期	43.8%	47.3%	91.1%
令和 5 年度秋学期	45.5%	44.1%	89.6%

どの項目についても、ここ数年高い評価を示す結果がでてきている。秋学期の3年間の経年変化を見ても、「非常にそう思う」と回答した学生は年々増加しており、授業内容への関心が高く、意欲的に学ぼうとする姿勢が見られる。また、授業内容の理解もできているととらえている学生が大半である。

秋学期は、多くの科目で、グループワークや体験的な学びを重視して授業を行ってきた。アクティブラーニングを取り入れた授業実践に力を入れたことで、学生は授業内容に関心をもち、授業に工夫があったと感じているのではないかと。また、教員の授業に対する工夫や努力が成果につながり、学生の高評価につながったのではないかと。

かと考える。しかしながら、上記3つの項目について、約1割近い学生は「どちらでもない」「そう思わない」「全くそう思わない」と回答している。グループワーク等を苦手とし、不安な気持ちをもって授業に臨む学生がいることに配慮し、心理的安全性の確保を図ることが求められる。

②学生の学修時間について

次に、「当該授業に関する授業外学修時間(週)」について、4年間の経緯を比較してみると、次のような結果であった。

質問項目8：当該授業に関する授業外学修時間(週)

	3時間以上	2時間以上～3時間未満	1時間以上～2時間未満	30分以上1時間未満	30分未満
令和2年度 秋学期	12.2%	11.4%	23.1%	22.9%	30.4%
令和3年度 秋学期	8.0%	7.9%	17.8%	22.8%	43.6%
令和4年度 秋学期	6.1%	7.1%	13.5%	21.4%	51.8%
令和5年度 秋学期	7.8%	4.8%	15.0%	24.2%	48.2%

1週間あたりの自主学修の時間は、コロナ禍による遠隔授業で増加したものの、コロナ以降減少している。

その原因の一つとして考えられるのは、令和4年度入学生から教員免許取得のための履修科目数が増加し、以前よりも過密なカリキュラム構成・時間割になっていることである。2年間という短期大学での保育者・教育者養成のため時間割に余裕がなく、5時限終了は18時前になる。そのため、学生の平日の授業外学修時間は限られてしまう。また、授業終了後や週末にアルバイトをしている学生も多く、自主学修の時間の確保が厳しい状況にある。そうした中でも、今学期は、自主学修の時間が昨年度より改善した。

学年別に春学期と秋学期の「当該授業に関する授業外学修時間(週)」を比較すると、次のような結果となった。

子ども学科 1年生	3時間以上	2時間以上～3時間未満	1時間以上～2時間未満	30分以上1時間未満	30分未満
令和5年度 春学期	4.3%	1.8%	5.5%	14.4%	74.0%
令和5年度 秋学期	8.7%	3.9%	9.9%	23.2%	54.2%

子ども学科 2年生	3時間以上	2時間以上～3時間未満	1時間以上～2時間未満	30分以上1時間未満	30分未満
令和5年度 春学期	2.8%	4.1%	14.3%	25.1%	53.7%
令和5年度 秋学期	7.1%	5.6%	19.2%	25.0%	43.2%

両学年とも、僅かではあるが秋学期の授業外学修時間は春学期よりも増加した。「30分未満」の学生が、1年生では約20ポイント減少し、2年生では約10ポイント減少した。しかしながら、1年生で「30分未満」の学生は5割を超えており、依然として大きな課題である。今後も引き続き、現1年生へのこれからの指導を充実していく必要がある。授業で出された課題に対して学びを再度ふり返り、自分で調べたり考えたりして、学びを確かなものにしていくことが自主的な学びの姿勢につながる。学生への課題の出し方を工夫するとともに、学生に求められる学びの姿勢として指導を継続していきたい。

③前年度または前学期の授業アンケート考察時から改善されたことについて

授業の質的な向上に向けた取組みの成果は継続されており、学生のアンケート結果として着実に出てきている。前述した通り、今学期は、学生の授業内容への関心、授業内容の理解、授業の工夫において、いずれも「非常に思う」と回答した学生が増加した。教員が、アクティブラーニングや体験的活動の価値を認識し、それらを実践していく力量をつけてきた結果ではないかと考える。

今後も、学生の学習に対する意欲や関心、また不安な気持ちについての把握と心理的安全性の確保に努め、本学としてのアクティブラーニングの充実に努めていきたい。

7-(2). 子ども学科全体の考察 (授業の質向上のために)

PROG や教学 IR の学修成果の査定結果をもとに、学生に力をつけていくための授業のあり方を考えていくことが重要ととらえている。学科のFD研修会では、「グループワークと個人ワークの両輪で学生の主体性を引き出す授業実践」について交流した。今後も引き続き、学科として「授業の質の向上」の取組みを進め、グループワークや体験授業等アクティブラーニングを取り入れた授業実践を、様々な授業形態において進めていきたい。そして、アクティブラーニングを積極的に取り入れることで、主体的に学ぶ姿勢を学生に育てていきたい。特に基礎力プログラムにおいては、2年間の学びを充実させるためにも、学び方の指導や chromebook の活用にかかる指導の充実に努めていきたい。

学科目標に掲げている「授業の質の向上」をより一層進めるためにも、教員が授業に対して創意工夫のある取組みを推進することが重要であり、研修の機会を充実していくことも大切であるとする。併せて、学生の学ぶ意欲、資格免許を取得するという強い意志を育て、主体的な学習態度や困難や不安を乗り越える力の育成にも取り組んでいく必要がある。

8. 授業アンケート回答率の推移

本学では、令和元(2019)年度より電子媒体である学生ポータルサイト (Campus Plan portal) を利用して授業アンケートを実施している。

本学では授業アンケートは無記名式の回答である。

今学期と過去3年間について、回答率の推移を学科・学年別に比較する。

	国文学科		子ども学科		全学	
	回収率	回収/受講	回収率	回収/受講	回収率	回収/受講
令和2年度春学期	85.9%	511/595	89.6%	1097/1224	88.4%	1608/1819
令和2年度秋学期	76.1%	388/510	83.2%	939/1129	81.0%	1327/1639
令和3年度春学期	90.7%	556/613	86.8%	1426/1642	87.9%	1982/2255
令和3年度秋学期	90.0%	497/552	82.7%	1340/1620	84.6%	1837/2172
令和4年度春学期	88.6%	504/569	81.7%	1221/1494	83.6%	1725/2063
令和4年度秋学期	92.1%	395/429	76.0%	1040/1398	79.9%	1435/1797
令和5年度春学期	98.9%	447/452	84.6%	884/1045	88.9%	1331/1497
令和5年度秋学期	88.8%	358/403	79.0%	728/921	82.0%	1086/1324
平均・合計	88.67%	3656/4123	82.8%	8675/10473	84.7%	12331/14566

一般的に大学で学生にアンケートを実施する際は、紙媒体の方が電子媒体よりも回収率が高いといわれている。本学は今年度で電子媒体での授業アンケートの実施は5年目に入り、在学生は全員が入学時より電子媒体で授業アンケートに回答している。学生がポータルサイトや機器の使用方法にも慣れてきている。

国文学科は平均を上回っているが、子ども学科は79%で全体の平均を1.9ポイント下回っている。特に子ども学科2年生の回収率が73.3%と低い数字をだしており、アンケートに対する意識の低さが見られた。

これからも学生が安心して回答できるよう、授業アンケートは無記名式かつ電子媒体での実施を継続する予定である。次年度以降も引き続き、まず学生の声を聴き授業改善について検討する材料を十分集められるよう、授業内での確実な授業アンケートの実施に努めていく。

以上